

豊前市の未来を拓く子ども達のため  
に、こんな学校を創りたい

---

豊前市教育委員会

# Q1 なぜ今、学校再編なのですか？

---

- 子ども達の人数が減ったことが第1の理由です。5年後、10年後には市全体でも一学年130名という現実を迎えます。
- 市内の小中学校の校舎は築50年を過ぎたものを含め、多くが建て替えや大規模改修の時期を迎えます。これらを順次改修し、今後維持し続けていくのか、今結論を出す必要があります。
- 今、世界的な国際化、情報化の中、「第3の教育改革」と呼ばれる程、学校教育が変わろうとしています。未来を拓く子ども達に必要な教育環境を整えることは、今を生きる私たちの責務だと考えます。

## Q2 地域から学校がなくなるのは一大事です。 学校再編についてどんな声が届いていますか？

---

- 子ども達の人数が減り、人口減少が進む中、再編はやむを得ないのでという声が多く届いています。
- 一方で、地域から学校がなくなると、地域が一層さびれていくので、自分達の地域だけでも学校を残せないか。跡地の活用など、地域振興の工夫と併せて考えてほしいという切実な声も届いています。
- また、すでに学校が小さくなり、部活も限られる等、今いる子ども達が困っている。もっと早く進められないのかといった声や、再編後のスクールバスによる登下校に関する不安といった声も届いています。

## Q3 今のままで、どんな問題があるのですか？

---

- すでに、豊前市の小・中学校は、すべて小規模校となっています。教員の配置数は、基本的に学級数で決まるため、中学校では全ての教科の教師が揃わず、部活も限られる状況となっています。
- 文科省は今年から小学校高学年の外国語、理科、算数、体育などについて、専門の先生が教える「専科制」を順次導入しましたが、中規模校（12から18学級規模）未満の学校では、その配置が見込めません。これは、豊前市の子ども達にとって、大きなハンデと言えます。
- 国際化、情報化に対応するための教育環境整備には大変大きな予算を要します。現状のままでは、財政上、難しいと言わざるを得ません。



## Q4 再編後の学校で目指すものは、何ですか？ 《統合中学校 → 京築ナンバーワン！》

---

- 1学年5クラス規模の中規模校となり、十分な教員配置が見込まれます。ブラスバンド等の文化クラブを始め、様々な運動クラブの活動が可能となり、生徒が多様な夢を描くことが可能となります。
- 主要な教科では、同教科に3～4名の教師が配置され、教員同士での磨き合いも可能になります。ベテランから若い教師まで、バランスの取れた質の高い職員組織が期待できます。
- 多様な意見が飛び交う活力ある学級・学校生活を通して、多様性に関する理解はもとより、自分なりの考えを築いたり、多くの人と考えを交流したりする力の獲得が期待されます。

## Q5 再編後の学校で目指すものは、何ですか？ 《義務教育学校 → 京築オンラインワン！》

---

- 小1から中3までの9年間のカリキュラムを工夫して編成し、6・3制にとらわれない独自の学びが実施できます。
- 1学年20名規模の小規模特認校という形で、一人一人に目の行き届く、密度の濃い学びが期待できます。
- 豊かな自然環境の中で、豊前市の歴史・文化を大切にした教育活動や、特徴的な部活動の実施などが期待でき、個の特性を大きく伸ばす特色ある教育活動の具現化が期待できます。

## Q6 再編後の学校で目指すものは、何ですか？ 《 2つの中規模小学校 》

---

- 1学年3クラス規模の中規模校となり、十分な教員配置が見込まれます。外国語や理科など、高い専門性が要求される教科には、専科教員の配置も期待され、中学校での学びにつながる質の高い授業の実施が可能となります。
- クラス替えが可能となり、いじめなど、生徒指導上の問題へ対応し易くなります。ベテランから若い教師まで、バランスの取れた職員組織が期待できます。
- 多様な意見が飛び交う活力ある学級生活を通して、自分なりの考えを築いたり、他の人と考えを交流したりする力の獲得が期待されます。

## Q7 再編後、大切にしている条件整備は何ですか？

---

- 小学校では約2 km、中学校では約6 kmを目安として、スクールバスによる登下校が可能になるよう条件整備を行います。
- 豊前の歴史・文化を系統的に学び、ふるさと豊前を大切にしている心を育む教育を推進します。スクールバスを活用し、豊前市全体規模での様々な校外学習を工夫することが可能となります。
- 情報教育や外国語など、未来を生き抜く子ども達にとって不可欠な学びを充実するため、ICT支援員の配置や、ネイティブとのオンライン学習の実施などの環境整備に努めます。



## Q8 地域とのつながりは工夫できますか？

---

- 再編後の学校は、地域の人子ども達の学びに関わりやすくなるよう、施設の構造や配置を工夫します。
- 中学校の部活動は、今後、地域人材やスポーツクラブなどの人材等の指導による活動へ変わります。学校の中での閉じた活動ではなく、地域と密接につながり、質の高い活動となることが期待されます。
- 放課後、子どもが宿題をしたり、好きな活動をしながらかお迎えを待つ「寺子屋」を希望する地域が担うことで、今まで以上に子どもと地域とのつながりを生み出すことが期待されます。

## Q9 再編後の跡地の活用は、どうなりますか？

---

- 再編に伴い、市内各地の学校の校舎、校地が空くこととなります。各学校の立地や校舎の経年状況等、それぞれの状況により、様々な活用が考えられます。
- 活用に当たっては、第一に地域の理解と協力が必要であることは言うまでもありません。
- 跡地活用のため、しかるべき検討委員会等を早急に立ち上げ、その中で地域の意見を聞きながら、それぞれの有効活用について、方向性を決めていくことが望ましいと考えます。

## Q10 今後の具体的な再編計画について、 情報発信はありますか？

---

- 今後、新しい通学区が決定され、具体的なことが決まっていきます。その都度、市報や市ホームページ等でお知らせしていきます。
- 具体的な設計が進んだ段階では、新しい学校の施設内容についてお知らせしていきます。
- 義務教育学校のカリキュラムや、中学校の部活動、制服や校歌、スクールバスの経路など、その進捗状況や決定事項など、その都度発信してまいります。

豊前市の未来を拓く子ども達に、  
誇れる学びの場を提供したい！

---

「行きたい、行かせたい」と、選ばれる学校づくりに向けて、皆様のご理解と、ご協力をよろしくお願いします。

豊前市教育委員会